

今月の先生

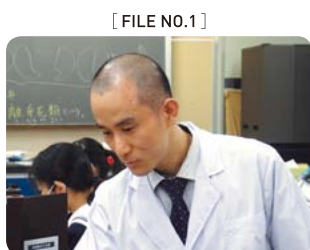
教員歴10年目以内の 進路担当の先生！

毎回、テーマに沿って4人の先生に登場していただき、さまざまな思いを語っていただく新企画がスタート！
今回は全国から若手の進路担当の先生が集合。率直な思い、熱い思いがあふれるコメントがそろいました。

6つの質問に4人の先生が本音で答える

先生 TALK!!

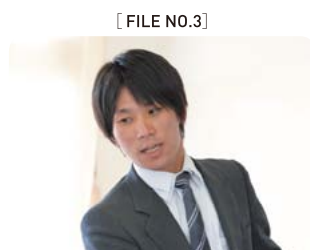
Q1 ≡ プロフィール



[FILE NO.1]
聖徳大学附属取手聖徳女子高校(茨城・私立)
進路指導部(部長)
理科(化学)担当
門倉 慶先生(教員歴10年)



[FILE NO.2]
小倉商業高校(福岡・県立)
進路指導部(第1学年)
地理歴史(世界史A・地理A)担当
田中 敬子先生(教員歴4年)



[FILE NO.3]
広島翔洋高校(広島・私立)
2学年 進路担当
数学担当
国貞 宗久先生(教員歴6年)



[FILE NO.4]
杉戸高校(埼玉・県立)
2学年担任・進路担当
英語担当
新井 学先生(教員歴7年)

Q2 ≡ 教員を志した理由

化 学変化をミクロの視点で見ると、目に見える変化をはるかに超える激しい変化が起こっています。私たちの想像を超える世界と出会えることが化学の魅力の一つです。理科嫌いの生徒は少なくないのですが、理科の魅力がわかってもらうことで、勉強することや考えることのおもしろさも感じてほしいという思いがありました。

世 界史を学ぶ楽しさや歴史の面白さを生徒に伝えたい。「生徒と一緒に授業を作っていきたい」と考えたのが教員を志した理由です。なかでも高校の教員を目指したのは、卒業後の進路が就職や就職を前提においた進学に直結する高校生の進路指導を、生徒に寄り添って行っていききたいという気持ちが強かったためです。

教 員である父の背中を見て、幼いころから尊敬していました。中・高校時代、数学が一番の得意科目で、友人に教えるのも好きだったのでますます興味がありました。そして大学でいろいろな人と出会い、多くの経験を通して、教員として自分にしか伝えられない何かがあるのではないかなと思うようになり、本格的に教員を目指すようになりました。

部 活も勉強も全力を出し切った経験がなかった自分が、大学生のときアルバイトで塾講師をして、人生で初めて熱中できるものに会いました。「わからなかったことがわかる」「やる気のない子がやる気を出す」という変化・成長に関われる素晴らしい仕事だと。教育実習でその思いはますます強くなり、教員になる決意をしました。

Q3 ≡ 教員として大切にしていること

生 徒一人ひとりに気を配ることで、集団での指導では伝わりづらいことでも、個別に指導していくことで、よりしっかりと生徒にしみこませていくことができます。時間も労力も生徒の人数倍かかることになりませんが、それが生徒のためであるなら、何に優先しても、一人ひとりを大切にしたい指導をしています。

授 業では「学ぶ楽しさ・おもしろさ」を伝えること。日常生活では社会人として求められる資質を生徒に身につけさせること。入学当初から生徒の卒業後、就職後の姿を頭の中に描いて生徒と共に過ごしています。うまくいかないことがあっても「人生はうれしいこと半分、辛いこと半分」の気持ちで大らかに構えるようにしています。

教 員は、他人の人生を揺るがすことが可能な意義深い仕事。だからこそ日々、コミュニケーションをとり、生徒の長所を見つけて最大限に生かし、やる気スイッチを押してやるのが教員として一番大切なことだと思っています。そして、自分の目標に向かって日々前進し、勉強を主体とした充実した高校生活を過ごせるように指導しています。

15 年生きて、すでに凝り固まっている生徒の心をほぐすには、相当なパワーが必要。だからこそ「心にまっすぐ届く言葉や態度」を大切にしています。自分は「厄介な大人」として、社会に出る最後の「越えなければいけない壁」になっているつもりです。この辛く厳しい社会で強かに生きていける人間になって欲しいと願っています。

Q4 ≡ 最近うれしかったできごと

担 任をしているクラスの生徒たちや保護者の方々が、私が担任になることを強く望んでくれたことです。本校では、年度ごとに担任が変わります。私は、昨年度は2年生の担任でしたが、年度替わりの際、生徒も保護者も「来年度も絶対お願いします」と言ってくれたのがうれしかったです。

所 属した学年の卒業生の働く姿を見ることができたことです。自分の意志で選んだ道で不慣れながらも奮闘している姿を見て、こっそりうれし涙を流しました。また、授業を担当しているクラスから「世界史の授業が楽しい!!」「自分でも調べてみます」という声が聞かれることや「教師になってよかった」というピュアな気持ちになります。

勉 強が楽しい」と言う生徒が増え、自ら学ぶ姿勢が一段と見えてきたことです。勉強は辛い面もありますが、やればやるほど力がつき、また、苦しさを乗り越えることで学力以外の力も備わってきます。その結果、自分の力でいきたい大学を目指す生徒が増えているのがとても嬉しいことだと思っています。

私 のようなおせっかいな教員はうとうしがられますし、こちらの思いはなかなか伝わりません。でも口うるさく言っていたことがいつの間にか身につけている姿をみたり、卒業した生徒が「あのとき先生にああ言ってもらえてよかった」と言ってくれたりしたときは、少なくとも間違いはなかったと胸を撫で下ろします。

Q5 ≡ 最近気になっていること

土 や木、虫などの生物に触れるなど、幼いときにしてほしい経験や体験を、生徒たちがあまりできていないことが心配です。身の回りのさまざまな体験やできごとから、生徒が疑問をもったり考えたりすることが重要と考えています。勉強ももちろん大事ですが、感受性豊かな今の時期に、たくさんの刺激を受けてもらいたいものです。

ア クティブラーニングの実践について。現在の授業設計を生徒の様子やそのときの状況にあわせて徐々に変化させていけたら、と思っています。授業に導入できる機器(電子黒板やタブレット端末等)の数が今後増えていくことを踏まえて、情報収集をしながら勉強していきたいです。

何 事にも受け身の姿勢ですぐ質問したり、すぐ諦めたりする生徒が多いように感じています。学校でも普段の生活でも与えられた物事に対し、「なぜ?」という感覚を常にもち、自ら考える力を持ち、プライドをもってくらいついていくような感覚をもてるようになってほしいし、そうなるように指導していきたいです。

便 利で快適な生活が当たり前になりすぎて、骨を折って何かをやり遂げる経験が乏しい生徒が多い気がします。スマホですぐ調べられるため記憶量も少ないし、「なぜ?」と疑問を持って論理的に考えることも少ない。とはいえ「昔はよかった」と嘆いても仕方ないので、どうやって彼らの主体的に学ぶ意欲を引き出すかを考えています。

Q6 ≡ 今後、挑戦してみたいこと

私 は現在、科学部の顧問をしています。創部2年目ですが、研究発表などにもチャレンジしていく予定。生徒の自由な発想を大切にしながら、理科の内容について「なぜそうなるのか?」という疑問を常に投げかけたいですね。それを機に生徒がさらに探究心をもって「なぜ?」と考え、現象の理由を深く考えられるような指導をしたいです。

実 生活とリンクした公民科の授業設計に挑戦してみたいです。選挙権年齢の引き下げや経済状況の変化などを踏まえ、今まで自分がやってきた授業とは異なる切り口からの授業づくりを行いたいと考えています。おそらくそれはキャリア教育や進路学習とつながる部分が多いのではと感じています。

ス マートフォンを含めた、ICTを教科指導に取り入れています。現在、スタディサプリによる反転授業に挑戦中。生徒の理解度や習熟度が高まり、効果を実感しています。生徒にとっては一度しかない高校生活なので、できること、良いと思うことは何でも取り組みたいですね。あのときやっておけばという後悔は私自身したくないので。

教 員歴7年目、30歳目前となり、そろそろ若さだけでは突っ走れなくなってきました。生徒との距離感をどう取るべきか考えています。放っておけない生徒が多いので、これからも「耳の痛いことを言う大人」「乗り越えなければいけない壁」ではありたいのですが、年齢が近いことで許されていた部分を何で置き換えるのか、が課題です。

Q7 ≡ 進路担当としての言葉や信条

進 路実現のための大きな柱の一つが勉強です。「勉強しても無理」と諦めている人がいるかもしれませんが、自分が目指す進路を強く望み、伸びていく自分を信じて頑張っていくことで、必ず力がついていきます。そうして身についた力と、頑張れる気持ちの強さが、生徒を希望の進路へ導いてくれるはずだと伝えています。

ど のような進路に進むかを考えるだけでなく、「どのような職業について、どのような人間になるか」を明確にもって進路選択をするようにと伝えています。社会で必要とされる人材になるために、自分の特性を生かして、早め早めに将来設計をし、それをもとに必要であれば徐々に修正していくような進路学習を目指しています。

高 校での進路選択は人生の中でも大きなターニングポイントだと私は思っています。だからこそ徹底的に生徒の立場に立ち、全力で向き合うことで妥協を許さない進路指導を心がけています。後悔は絶対にさせたくないの、生徒自身が納得し、夢に向かって努力を惜しまない人になってもらえるよう日々問いかけているつもりです。

い つも「見える」人になりなさい」と言います。どんなコミュニティも、その場の状況や構成要員の特性などが「見える」人間を中心として成り立っています。指示されたことしかできない人間になってほしくない。仕事の本質、経緯、言外のこと、人と人とのつながり…いろいろなことが「見える」人間であってほしいのです。